

寺報

No.631

令和2年3月

蓮華寺
發行

御聖訓

法華經は釈迦牟尼仏なり、法華經を信ぜざる人の前には釈迦牟尼仏は入滅を取り、此經を信ずる者の前には滅後たりといえども、仏の在世なり。

『守護国家論』



(解説)

日蓮大聖人は自らの御教えの結論、そして信仰の基盤として、お釈迦様は即ち法華經であり、法華經は即ちお釈迦様であると説かれました。つまり、常に一体なのだという事です。

そもそも、仏教はお釈迦様より発し、お釈迦様なくして仏教はないのであります。

我々にとりまして、お釈迦様は仏教の主であり、師であり親でもあるのです。

ですから、お釈迦様と法華經への信仰を逸脱すればそれは真の仏教とはいえないでしょう。

お釈迦様は他国の仏、過去の仏、ぬけがらなどと教える、日蓮系信仰集団は仏教とはいえないのです。

つまり、お釈迦様と法華經の教えを戴き、お題目をもって信じ仰ぐ者には、仏様は常にましまして、我々と共に生きていくのです。

どうか、皆様もお題目・法華經のお力で、今住むこの世界を仏様の世界へと変えていくように精進致しますよう。

『春彼岸会』『星祭』

十七日(火)・二十日(金)・二十三日(月)

水 行・・・昼十二時半

大本堂前

法 要・・・午後一時

大本堂

法 話・・・約十分間

番 当 話 法		
十七日	加藤上人	
二十日	對馬上人	
二十三日	住職上人	



④『春彼岸会』と『星祭』の法要は三日間ですが、先祖供養は、残り四日間『朝のお勤め』の中で読み上げさせて戴きますので、ご安心下さい。
 なお、合わせて星(劍守札)もご祈祷します。
 お供物も受け付けています。

法要次第

- 一、勸 請(導師が唱えます)
- 一、開 經 偈(無上甚深微妙の)
- 一、お 經(漢字読み)

序品第一〜方便品第二〜如来寿量品第十六
 【自我偈】〜如来神力品第二十一〜觀世音菩薩普門品第二十五〜咒陀羅

- 一、御 祈 禱(法楽加持)
- 一、御 妙 判(如説修行鈔)
- 一、お 題 目(南無妙法蓮華經)
- 一、宝 塔 偈(此經難持)
- 一、星 祭 祈 願(導師が唱えます)
- 一、お 經(自我偈・漢字読み)
- 一、お 題 目(南無妙法蓮華經・僧侶は供養の読上)
- 一、彼 岸 回 向(導師が唱えます)
- 一、四 誓(衆生無辺誓願度)
- 一、お 題 目 三 唱

【法 話・・・約十分間】

以上

④ご祈祷のお経は速く読みますので、ご了承下さい。

お寺からのお知らせ

*先祖供養(一週間)・・・八百円

④お彼岸の先祖供養は、お彼岸前に申し込みますと、一週間、またその後に申し込んだものでも、「彼岸明け」まで供養を続けさせて戴きます。
 どうか、ご供養は出来るだけ、お彼岸前日迄にお申し込み下さい。

*追 膳(一週間)・・・三千五百円

④お彼岸の追膳は『位牌堂』、三階『永代供養堂』、また、お預かりの『お骨』に一週間上がりまます。
 「彼岸入り」以降のお申し込みも受け付けますが、期間中、一日だけという(特定の日)の受付はしてありませんので、ご了承下さい。
 また、追膳は数に限りがありますので、お早目にお申し込み下さい。

*劍 守 札(星)【一体・二百円】

④星(劍守札)のお申し込みは、専用の申込書にお名前と性別・生年月日をお書きの上、お早目にお申し込み下さい。なお、宗派は問いません。

「星」(劍守札)を
申し込みましょう!

当山では『星祭』の期間中、一週間、皆様のご家族のお名前と性別・数え年を記入しました「星」(劍守札)をお祀りして、その年の善星が皆来し、悪星が退散し、一年間無事安泰でありますようにと祈願します。
 その為に、大荒行・壹百日間の修行を終えました僧侶が、十七日の彼岸の入り・二十日の中日・二十三日の明けの三日間、水行をし心身を清めてから、ご祈祷をします。

「星」はいわゆる「日曜星」土曜星」の七曜星に、太陽と月をさえぎる「羅喉星」、彗星である「計都星」を加えました「九曜星」を、皆様の年令と性別によって配当していきます。

それで、我々はその年の自分の運勢を知り、これをも元に行動し、更に法華經・お題目の信仰を持つ事によって、より一層安心した人生を送れるのです。

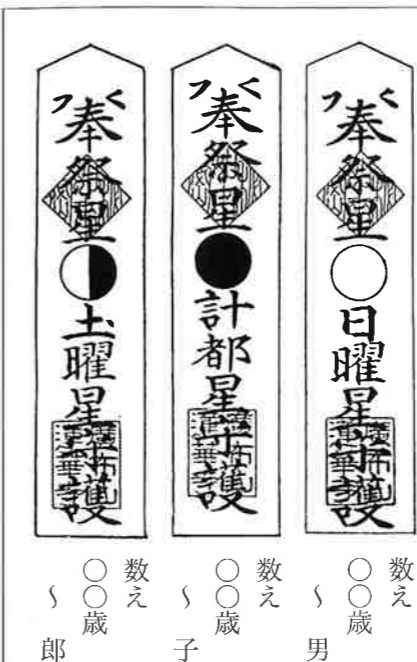
どうか、檀信徒の皆様は是非とも毎年この「星」(劍守札)をお申し込みになりますように願います。
 また、新規のお申し込みもよろしく願います。

星（劍守札）のまつり方

お寺より【星】を戴きましたら、そのままにして置かないで、必ず厚紙に貼り、各自の数え年と名前を書き、自宅の御寶前か仏壇の下の方にお祀りして、毎朝拜むようにして下さい。

また、昔より仏間のカモイに張る家庭もあります。とにかく、一年間大事にお祀りする事が大事です。

令和二年度星祭



※なお、五枚まで貼れる専用の台紙も、五十円で事務所にて販売しております。

三月十三日（金）

午後一時より

場所.. 大本堂

会 繁 涅 尊 釈



*お釈迦様がお亡くなりになりました、祥月命日の日です。

*十三日講のお勤めの中で、一緒に執り行います。

*お供物をお受けします。

大本堂

『須弥壇』
『鬼子母神・妙見様御厨子』
『大黒様御厨子』

ご寄付のお願い

今年六月二十一日（日）、日蓮大聖人のお誕生日【御生誕】八百年記念の東北教区大法要が、日蓮宗の管長 猥下をお迎えしまして、当山で厳修されます。

その記念事業としまして、当山では大本堂御寶前の前の『須弥壇』（前机）と両脇にお祀りしています『御厨子』の修復工事を現在行っています。

四月下旬に納品され組み立てられて、五月には完成する予定です。

どうかその旨をご理解戴きまして、今般の修復へのご協力をよろしくお願い致します。

なお、御浄財はご賛同頂けます檀信徒の皆様方にお願ひしております。

*勸募方法

- 一、改修費用 三千一百万円
 - 一、完成予定 令和二年五月
 - 一、浄財 一口・一万円
- 完成まで募集します！

『位牌壇』募集！

◎お寺に『位牌壇』がありますと、毎朝必ずお題目が唱え続けられていきますので、皆様の御先祖や仏様が今後代々に渡り守り続けられていきます。

◎仏様の御命日に当る日に、諸用や旅行などで不在の時でも、ご予約戴ければ『位牌壇』の前に追膳をお上げし、またお経も唱えさせて戴きます。

◎特に青森では冬期間お墓参りが出来ませんので『位牌壇』がありますと、常にお寺に参拝出来ます。

◎最近の仕事などの関係から、家族が地元に住めずに仏壇を維持出来ない為、『位牌壇』に位牌を預かり青森に帰省した時にお参りをする方達も増えてきていますが、それでも構いません。

◎現在空いています上席の『位牌壇』に上がりたい方には、数のある限り無料でお譲りしています。

☆ 靈 断

檀信徒の皆様で、日頃から何か困り事や悩み事がありましたら、迷わずに蓮華寺までご相談下さい。

日蓮宗の秘法『九識靈断法』にて当山僧侶が解決、ご指導致します。宗旨宗派は問いません。

三月の行事

- 一日(日) 盛運祈願会 午後一時より
- ・お守り【霊神符】の交換の日です。
- ・自ら進んでお勤めに参加し、お経を唱えましょう。
- ・聖典(お経本)と数珠は必ずご持参下さい。
- ・蓮華寺檀信徒の方は、必ず【霊神符】をお持ち下さるようお願い致します。



- 十三日(金) 日蓮大聖人のご命日 午後一時より
- ・お経 如来神力品第二十一(訓読・日本語読み)
- 如来寿量品第十六 (真読・漢字読み)
- ・皆様も日蓮大聖人さまの御報恩を忘れずに参拝し一緒にお経・お題目を唱えましょう。

- 十三日(金) 釈尊涅槃会 午後一時より
- 二十二日(日) 甲子きのえね【大黒様の日】 朝のお勤め中

- 『春彼岸会』・『星祭』【三日間】
- 十七日(火)・二十日(金)・二十三日(月)
- 【水行】 昼〇時半より
- 【法要】 午後一時より

☆奉仕のお知らせ

- 十四日(土) 星祭の準備 男女共・午前十時より
- *星祭の祭壇、水行等の準備
- 十七日(火)【彼岸入り】 男女共・午前十時より
- 二十日(金)【彼岸中日】 男女共・午前十時より
- 二十三日(月)【彼岸明け】 男女共・午前十時より
- ②『春彼岸会・星祭』の行事は三日間ですので、ご奉仕とご参拝は日程・時間をお確かめの上、お願いします。
- また「水行」のお手伝いは、人手が沢山必要ですので、一日でも多くご奉仕下さい。
- 特に二十三日(月)は星祭のお札を渡す日ですので是非ともご協力をよろしく願います。

☆『春彼岸会の追膳』

十七日(火)〜二十三日(月)まで一週間
 『お彼岸の追膳』のお手伝いは一週間、朝【午前六時〜七時半頃迄】夕【午後三時〜五時頃迄】です。でお手伝い出来ます方は時間までご集合下さい。
 ②お手伝い希望の方は、教宣部員以外でも歓迎しますので、どうぞ時間までご集合下さい。

- ◎奉仕部長 山田兼補 ◎伝道部長 小野正春
- ◎教宣部長 杉淵昌三

☆『永代供養塔』のご供養

境内に安置しています『永代供養塔』『水子観音像』『動物供養塔』の(彼岸供養)は、二月二十日(金)の午前十時三十分より、住職上人がご回向します。ので、ご一緒に参拝出来る方は、時間までにお越し下さい。
 時間は約三十分くらいです。

☆今月まで、檀信徒研修会
 はお休みとなります。

「寒修行」終了す

本年、一月六日から二月二日までの二十八日間に渡り行われました「寒修行」は、皆様のご協力により無事終了する事が出来ました。
 今年は寒中は比較的暖かく、雪も少ない気候でしたがそれでも、暖房もない夜間の修行でしたので、参加者にとってはきついものとなりました。
 特に、一日も休む事なく頑張って参加された方には、敬意を表します。

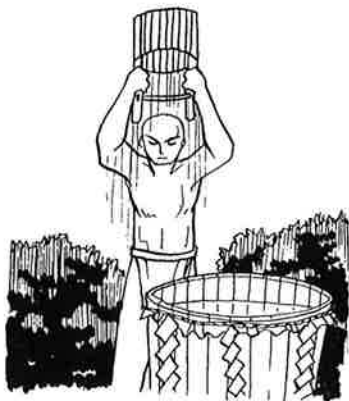
本来、修行とは誰の為でもなく、自分の為に行うものですが、その僧俗一体となり一心に修行しているお姿は、正に異体同心、ご本仏様そのもののお姿でした。
 どうか来年度からは、いまだ参加した事のない方々も「寒修行」に参加してみてください。
 まず、何よりも実行してみる事が大切です。
 なお、今般も法務ご多忙の中、導師を勤めてくれました住職・加藤・對馬・塙の各上人に於かれましては、誠に有り難うございました。
 また、参加された皆様も、どうも長期間のご修行ご苦勞様でした。

『春彼岸会』 『星 祭』

三月

十七日 (火) ・ 二十日 (金) ・
二十三日 (月) の三日間

水 行・・・昼十二時半より 大本堂前



法 要・・・午後一時より 大本堂
法 話・・・約十分間 法要終了後
(先祖供養、追膳、星【剣守札】は受付中)

* 『水行』『法要』は彼岸の入り・中日・明けの三日間ですので、檀信徒の皆様もご注意の上、ご参拝下さい。なお、ご供養は残り四日間「朝のお勤め」の中で御回向します。